

子どもワークショップ「もっといい杉並を一緒に考えよう」第4回（発表）（令和6年3月30日）

発表の際に出てきた意見 ※抜粋

司会：子どもワークショップに参加しようと思ったきっかけを教えてください。

参加者からの回答：

- 杉並区がどんなふうにも子どもの意見を取り入れて、反映させてくれているのか疑問を持ったので参加してみようと思いました。
- 近所の児童館が何年か前に急に無くなることになり、その後にできた代わりの場所も十分だと思えないということがあった。この経験に対しての自分の意見を直接伝えたいと思ったから。また、この経験を子どもにとって居心地の良い居場所を作るために活かせるとおもったから。等

司会：子どもの権利について学び、考えたことは何ですか？

参加者からの回答：

- 自分が日頃「ふと気になったこと」が子どもの権利につながっていて、そういう「ふと気になったこと」から、いろいろな人が権利に興味を持ってくれたら、杉並はもっと「子どもにとって居心地の良いところ」になると思います。
- 子どもの居場所について考えました。例えば、杉並区の場合だと中高生の居場所として、ゆう杉並があります。ゆう杉並はワークショップ第1回で見学をし、とても施設が充実していて素晴らしいと思いました。最近は、ボール遊び禁止等、公園はほとんど機能していないのが現状です。今は阿佐谷周辺の子たちしか、子どもの居場所が提供されていないのでみんなが通える距離で、居場所を用意する必要があると思いました。等

司会：「杉並区を子どもにやさしいまちにするために、もっとこうなったらいい」と思うことはありますか？

参加者からの回答：

- タブレットを学校から毎日もってかえっていますが、とても重いです。4年生の僕でも重いのに、低学年の子が持って帰らされるのは大変だと思います。なので、僕はタブレットを持ち帰る日を、2日に1回か1週間に1回でいいと思います。
- 子どもたち同士での交流が活発になる取組や、ワークショップという形でなくても権利について話し合えることができ、誰でも気軽に参加できる場所を作してほしいです。等